

学内研究組織（2024年度）

研究課題：「台湾における新住民言語学習戦略と言語イデオロギーから見る成員性」

台湾における新住民言語学習戦略と言語イデオロギーから見る成員性

Membership in Taiwan: A View from New Immigrant Language Learning Strategies and Language Ideology

中谷 潤子 (Nakatani Junko)

本研究の目的は、台湾の新住民政策のなかの新住民言語学習に注目し、台湾政府の戦略を明らかにすることと、それとともに台湾社会にどのような変化が見られるかを明らかにすることである。そのために3年間をとおして、小学校、中学校で行われている新住民言語の授業見学と教員や学習者へのインタビュー、そして各自治体でのインタビュー、さらには台湾住民へのアンケートをしようと計画している。

台湾ではもともと本土言語である台湾語、客家語そして原住民言語の学習が必須化されており、2019年より新住民言語と言われる東南アジアの7言語の学習も導入された。研究期間の初年度である2024年度は、実際の学校現場の調査に注力した。9月初旬に新住民集住地域ともいえる桃園市の小学校3校でベトナム語のクラスとインドネシア語のクラスを見学し、担当教員にインタビューを行うことができた。その際、台湾教育局が教材、副教材を含めたすべてのマテリアルを作成、提供しているその充実ぶりに驚いた。またこの時、国家教育研究院で原住民言語教育について研究している周惠民教授へのインタビューも行うことができた。

それがきっかけで2025年3月には、本土言語教育の現状を調査することとした。まず台湾北部の原住民集住地区の実験小学校を訪問し、原住民言語教育を見学するとともに、教員、校長への聞き取りをした。それから南部の高雄市の中学校で台湾語と客家語の授業を見学し、担当教員への聞き取りを行った。

いずれにしても、国語と言われる中国語の教育と普及が進んだ現在、ルーツの言語の保持・継承は簡単でないのはいうまでもないことである。

収集データとしてはまだ少ないので、2025年度には桃園市のような新住民集住地区ではないところの学校教育、そして市政府の取り組み等の聞き取りを行おうと計画している。

なお2024年度の調査結果については、2025年9月に京都大学で開催される「第4回先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化に関する国際会議」でパネル発表をすることになっている。